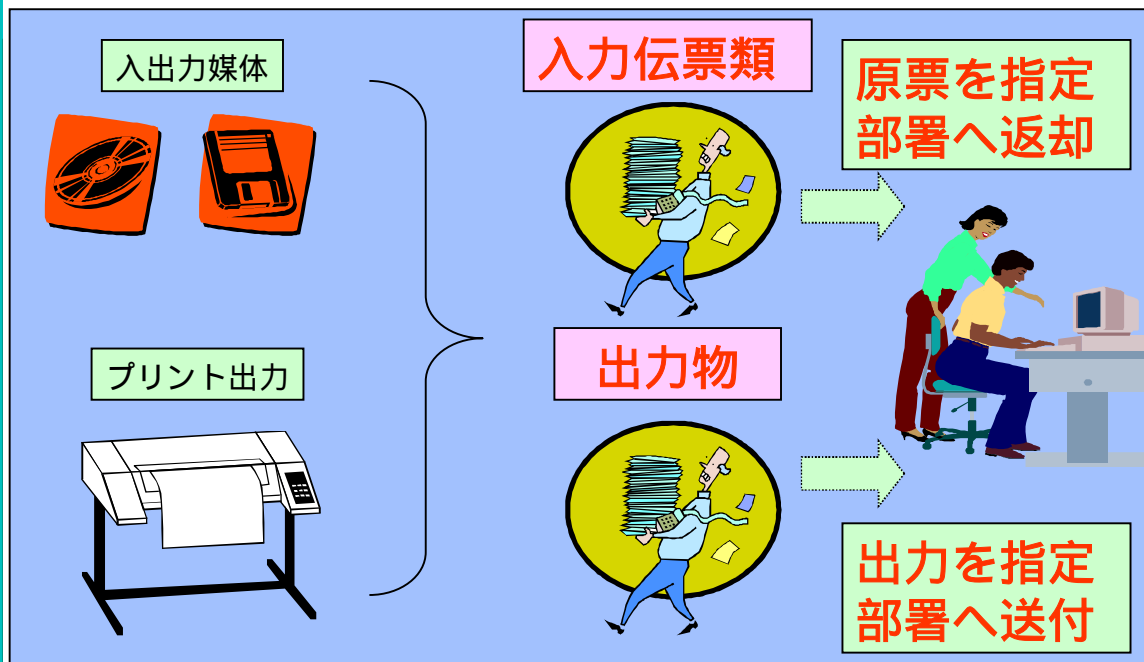


業務の処理結果の配布と後始末

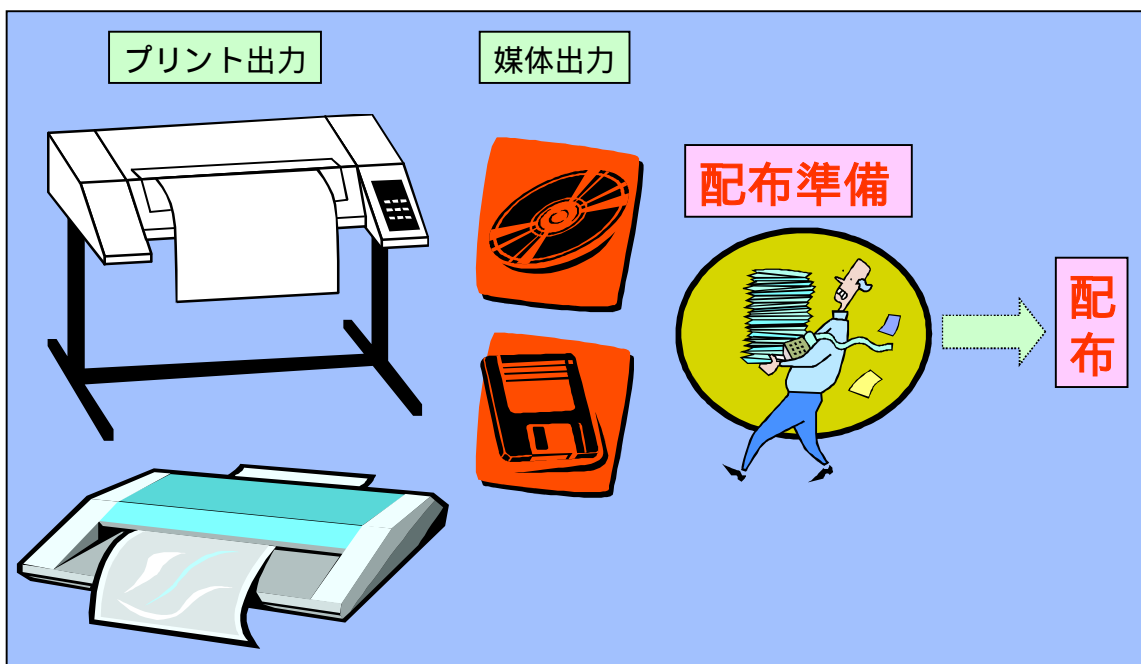


MT, FPD, 出力帳票

インプット、アウトプットで使用した媒体及び出力された帳票は、オペレータが取りまとめI/O担当に引き渡します。I/O担当は、以下の様に後処理を行います。

- パンチ原票・・・指定場所へまとめて送付します。経理用の原票は、マイクロフィルムにする場合もあります。最近では、電子媒体として、CD-RやMOに保存することも許されました。(電子帳簿保存法)
- MT, FPD・・・社内用は、指定棚へ返却、発送用は、まとめて指定配布を行います。
- 出力帳票・・・指定方法、指定配布先にまとめて送付します。未処理の用紙は、指定棚に保管します。

ホスト出力(連帳, カット紙, LBP, MT, FPD)



ホスト出力帳票、MT、FPDの仕分配布

以下の様に媒体単位にそれぞれの後処理を行いユーザへ送付します。

連帳... 一定間隔でミシン目の入った連続用紙を指します。

11インチ66ラインの用紙が一般的に使用されます。用紙が連続している為、プリント時のジャムは、カット紙に比べ殆どまれです。しかし、後処理でミシン目より一枚一枚切り離し(バスター)たり、3枚複写の用紙を3つに分けたり(セパレーター)、用紙の両サイドに入っているプリント送り用の穴空きのミミをカットしたりしなければなりません。用紙架け替えの手間を省く為に巨大なロール紙を使用しているお客様もいらっしゃいます。

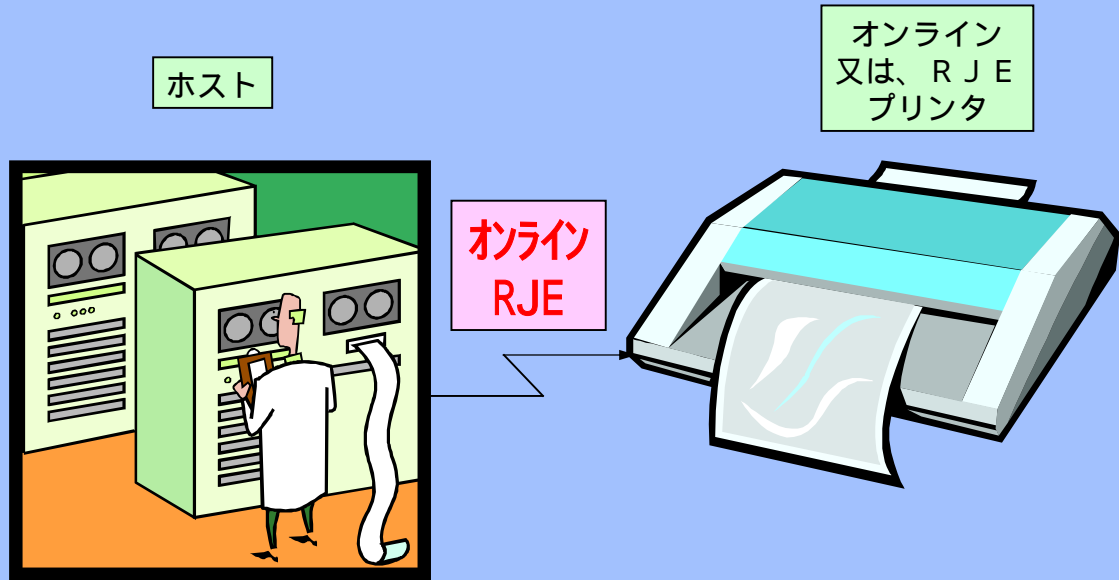
カット紙...一定の大きさにカットされた用紙を指します。A4サイズが一般的です。より効果的に使用する為に弊社A-SPOOLを使用し配布先単位にまとめて両面出力し、配布先の区分けの為に色紙の送達表を間に入れます。これにより仕分け作業が、(配布先数×帳票数)分短縮になります。官公庁もA4サイズ化が推進されています。

専用用紙...事前に帳票のデザインが印刷された用紙、又は、葉書などの特殊なサイズの用紙のことを言います。

応用用紙...色々な帳票が、この用紙にプリントできます。応用が利く用紙と言う意味で応用用紙と言う呼び名がつけました。用紙メーカーの呼び名からストックフォームと呼ばれることもあります。11インチ66ラインで6ラインに1本の割合で線の入った用紙が一般的です。お客様によっては、11インチ88ラインが基本であったり、同じサイズで白紙(ノーライン)であったりします。

LBP...レーザービームプリンタの略です。白紙の用紙にオーバーレイと呼ばれる帳票の罫線等のデザインとデータを同時に出力することが可能です。専用用紙ではない為、用紙保管スペース、事前印刷代、注文数の小ロット化によるコスト高から開放されます。

帳票の分散出力 (R J E , オンライン)



ホスト出力より R J E , オンラインによる分散出力

現在のようにLANやWANが発達する以前に、ユーザよりの帳票をより早く活用したい要望を満たす為に発達したのがRJEやオンライン分散出力です。

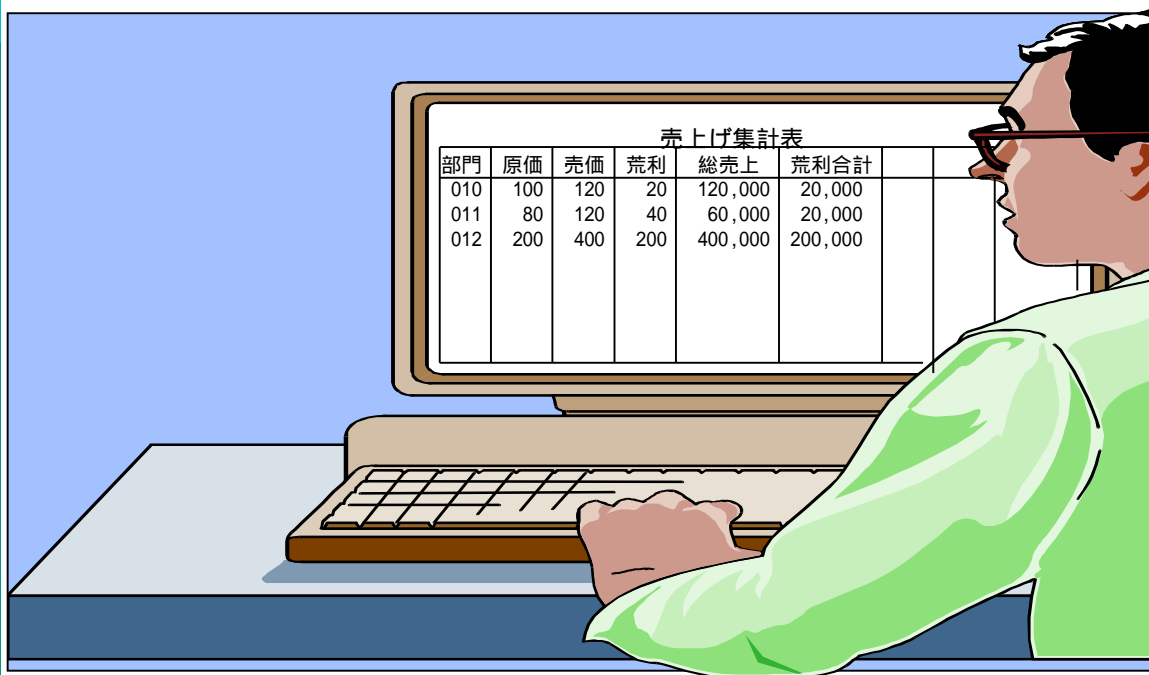
RJE出力・・・Remote Job Entry 出力 (JESの機能の一つ) は、遠隔地のRJE端末とそれに付随したRJEプリンタが必要でコスト適に出力枚数が多くないと採算が合わない処理です。メーカーによりオーバーレイ出力も可能です。

オンライン出力・・・CICS (IBM) , DCCM (日立) , AIM (富士通) 等のオンラインよりプリント出力する方法です。殆どの場合オーバーレイ出力は、できません。また、専用のプリントプログラムを組む為には、熟練を要します。

これを解決する方法として弊社A-SPOOL/CICS , AIMがあります。

これは、それまでホスト出力していた帳票をオンライン化し、分散出力または、オンラインで内容を確認することを可能にしました。

帳票の分散出力(電子帳票)



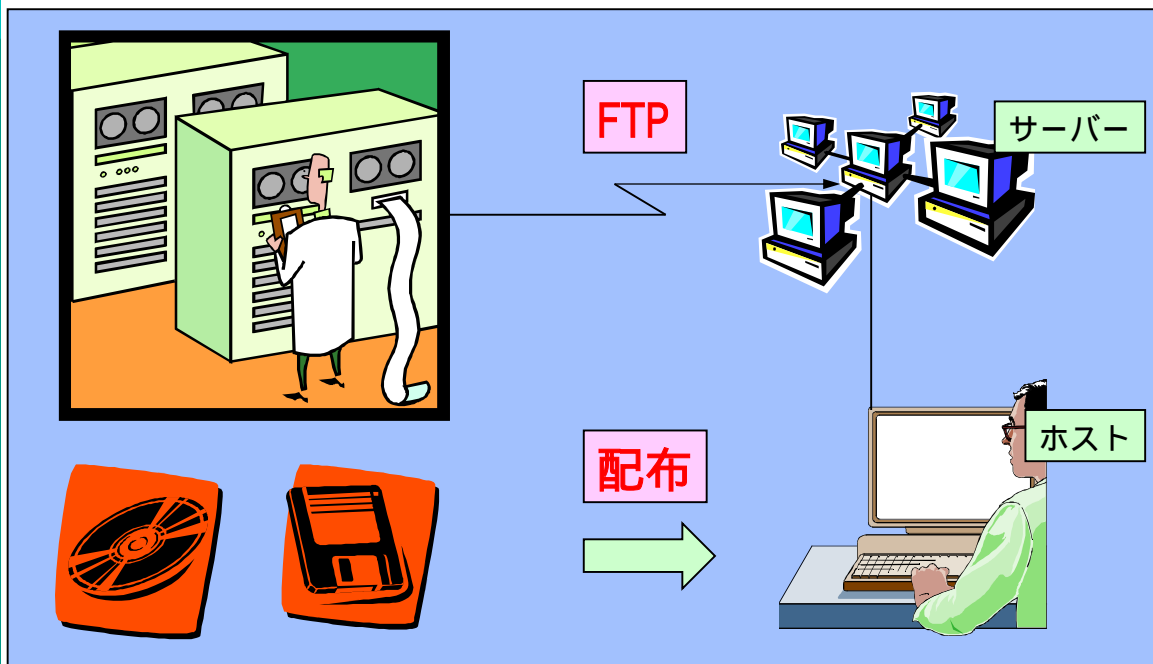
電子帳票

現在のようにLAN, WAN環境が整備された環境では、ユーザーからの以下の要望を満たす為に電子帳票が開発されました。

- それまでPCに再入力していた帳票データをそのまま活用したい。
- プリントせずにPCの画面で帳票内容の検索確認をしたい。
- オーバーレイが掛かっていないと内容が把握しづらいのでオーバーレイは、必須である。
- 帳票の保管日数も自分で管理したい。

ホストで作成された帳票は、弊社A-SPOOL/MAILにより各サーバー、クライアントPCへ送られ電子帳票として活用されます。

データの直接配布（MT, FPD, FTP）



FTPによるホストデータの分散配布

現在のようにPCが一人1台の環境では、これまでシステム部門から与えられた帳票やオンライン画面のみで満足していた（実際には我慢していた）ユーザよりさまざまなデータ請求要望が挙がってくるようになりました。これを解決する為にデータウェアハウスと言う考えがでてきました。このデータをサーバーに転送するのにFTPが使用されます。

この様に、ユーザの回りには、様々なデータ（含む電子帳票）が存在します。ユーザは、このデータを活用し様々な個人用の帳票を作成するようになってきました。これを手助けするシステムとしてBSPグループが販売している帳票データを活用再利用するInformation Navigatorやオープン系での帳票仕分けや帳票管理をするBSP-RMが、あります。